

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
津市	美杉町太郎生地区	令和4年3月31日	—

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	50 ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	37 ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	7 ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2 ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	1 ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	25 ha
(備考)	

2 対象地区の課題

<p>耕作意欲のある個人の担い手(認定農業者)が1人いるが農地の集約化(まとまった団地の確保)が課題である。また、新規就農者や新たな認定農業者についても今のところ候補となる者がいない。中間管理事業についても、当地区で耕作を希望しているものがない。</p>

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

<p>地域外からの入作についても検討していくが見込めない、当地域は、中山間事業に取り組む集落が5団体あるのでその団地を中心として、オペレータの育成や耕作意欲のある認定農業者に集約化できるよう、農地の調整も含めて地域内で少しでも話し合いをすすめていきたい。</p>
<p>当面の間は、現在元気な方に少しでも耕作をお願いしていく。また家族間(親子)での耕作の引継ぎを考えていきたい。</p>

※現在、中心経営体(担い手)として人・農地プランに掲載されている人数:15名

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

地域内外を問わず、新たな農業人材の育成、受け入れを行うため、農地を集約できるよう地域内で協議を行う。
中山間事業に取り組む集落については、関係者の協力を得ながら事業を継続していく。
地域内において中心経営体が受け手となって中間管理事業が活用できるよう、中心経営体を含めて地域内で話し合いを進めていく。
当地域は、地域振興作物である「まこも」の作付を推進している。販路拡大の調整をおこない、地域内で特産品として農業を盛り上げたい。